

Ⅲ

地 理

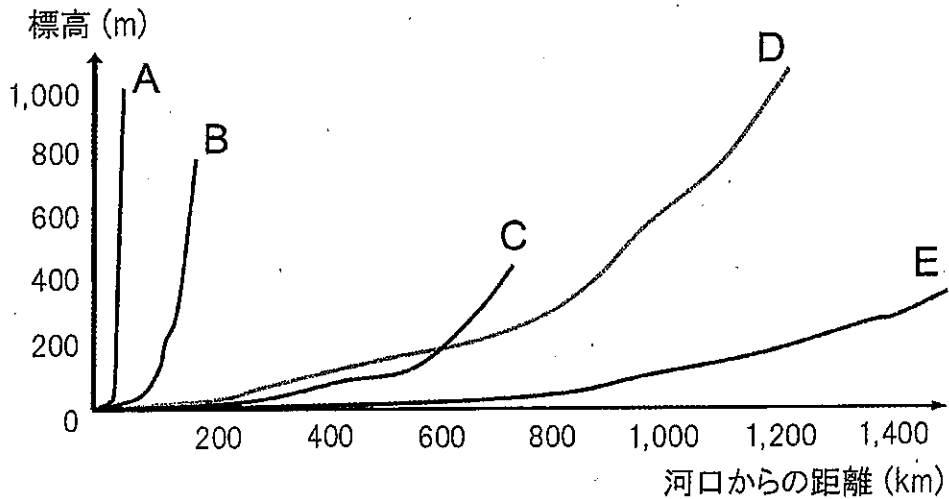
問題は、次のページから書かれていて、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの3題ある。

解答は、問題ごとに与えられた指示にしたがって、答案紙の所定の解答欄に書き入れよ。

地理 問題 I

河川や自然環境に関する次の問1～2に答えなさい。

問1 次の図1は、世界と日本の河川の河床縦断面を示している。この図に関して下の(1)～(2)に答えなさい。



国土交通省の資料を基に作成。なおこの図では、源流までを描いていない。

図1

(1) 図1中のA～Eは、木曾川、コロラド川、常願寺川、セーヌ川、メコン川のいずれかに対応する。A～Eの河川名をそれぞれ答えなさい。

(2) 日本の河川の特徴を、世界の河川と比較して説明しなさい。

問 2 次の図 2 は天竜川(支流を含む)周辺の各所の地形図である。この図に関して下の(1)～(5)に答えなさい。

(ア)

この部分につきましては、
著作権の都合により公開いたしません。

(イ)

この部分につきましては、
著作権の都合により公開いたしません。

(ウ)

この部分につきましては、
著作権の都合により公開いたしません。

国土地理院の資料を基に作成(縮尺 1:25,000)。

図2

- (1) 図2(ア)のM-N断面のような横断形を示す河谷の地形名称を答えなさい。
- (2) (1)で答えた地形の形成過程を説明しなさい。
- (3) 図2(イ)のO-Pの断面図を解答用紙に描きなさい。断面図には、横軸と縦軸の目盛りに適切な数値を記載すること。なお、図2(イ)のO-P線の長さは4 cmである。
- (4) 図2(イ)のO-P線上に見られる土地利用を、地形と関連させて説明しなさい。
- (5) 図2(ウ)のXの範囲には離岸堤が設置されている。このような構造物が設置された背景を、流域の開発の観点を含めて説明しなさい。

地理 問題Ⅱ

漁業および海運に関する，次の問1と問2に答えなさい。

問1 次の漁業に関する表1および図1を見て，下の(1)～(4)に答えなさい。

表1

この部分につきましては、
著作権の都合により公開いたしません。

FAO 資料により作成。統計年次は 2020 年。

この部分につきましては、
著作権の都合により
公開いたしません。

ペルー

この部分につきましては、
著作権の都合により
公開いたしません。

A

この部分につきましては、
著作権の都合により
公開いたしません。

B

この部分につきましては、
著作権の都合により
公開いたしません。

C

この部分につきましては、
著作権の都合により
公開いたしません。

D

FAO 資料により作成。

図1

- (1) 表1は各国の養殖による水産物生産量を示している。ア～ウが、海面養殖、内水面養殖、汽水面養殖のいずれに該当するかを答えなさい。また、判断の理由を説明しなさい。
- (2) 図1は各国の漁獲量を示している。A～Dの国を表1から選び答えなさい。
- (3) 図1に示したペルーの漁獲量は、年によって大きく変動している。漁獲変動の要因の一つとして、エルニーニョ現象による影響があげられる。エルニーニョ現象について、[]内の語句をすべて用いて説明しなさい。なお、語句は繰り返し用いてもよいが、使用した語句には下線を引くこと。
[海水温、海流、南東貿易風、湧昇流]
- (4) 図1に示したペルーは1960年代から1970年代初頭まで漁獲量が世界第1位であったが、漁獲量のほとんどは特定の魚種に依存し、乱獲により急減した。その魚種とは何か、またそれはどのように加工され、何に利用されるのか、説明しなさい。

問 2 東アジアとヨーロッパの間の海上輸送には、「イ：スエズ運河を通る航路」と「ロ：喜望峰を通る航路」の2つの航路が主に利用されている。加えて、2009年からは、「ハ：ベーリング海峡を通る航路」の利用が開始された。東アジアとヨーロッパの間の航路に関して、下の(1)~(5)に答えなさい。

- (1) イ~ハの3つの航路を線で描きなさい。なお、発地は横浜港、着地はロッテルダム港とする。描いた3本の航路にはイ、ロ、ハの区別を明記すること。
- (2) スエズ運河と並び、海運の輸送距離を大幅に短縮する国際運河としてパナマ運河が知られる。パナマ運河の位置を地図上に●で記しなさい。
- (3) スエズ運河とパナマ運河を比較した次の表2のあ~くに入る正しい語句をA~Nから選びなさい。

表 2

| | スエズ運河 | パナマ運河 |
|--------------|-------|-------|
| 開通年 | あ | い |
| 運河の方式 | う | え |
| 全長 | お | か |
| 運営国(2022年時点) | き | く |

- A. アメリカ B. イギリス C. イスラエル D. エジプト E. フランス
 F. パナマ G. 1869年 H. 1914年 I. 1939年 J. 約43 km
 K. 約80 km L. 約193 km M. 閘門(ロック)式 N. 水平式

- (4) イやロの航路よりも航行距離が短いためハの航路は、かつてから注目されていたが、近年になってようやく利用され始めた。利用可能になった理由を気候変動と関係づけて説明しなさい。

- (5) 現在利用されているイの航路では、航海の安全を脅かす問題が生じている。
具体的にどこで、どのような問題が発生しているのか説明しなさい。

地理 問題Ⅲ

次の表1は、日本の輸入相手(上位7カ国・地域)と日本の輸入総額に占める各国・地域の輸入金額の割合を示したものである。この表に関して、下の問1～10に答えなさい。

表1

単位：%

| 順位 | 1990年 | | 2000年 | | 2010年 | | 2020年 | |
|----|---------|------|----------|------|----------|------|-------|------|
| 1 | (a) | 22.3 | (a) | 19.0 | (c) | 22.1 | (c) | 25.8 |
| 2 | インドネシア | 5.4 | (c) | 14.5 | (a) | 9.7 | (a) | 11.0 |
| 3 | (b) | 5.3 | (d) | 5.4 | (b) | 6.5 | (b) | 5.6 |
| 4 | (c) | 5.1 | 台湾 | 4.7 | サウジアラビア | 5.2 | 台湾 | 4.2 |
| 5 | (d) | 5.0 | インドネシア | 4.3 | アラブ首長国連邦 | 4.2 | (d) | 4.2 |
| 6 | ドイツ | 4.9 | アラブ首長国連邦 | 3.9 | (d) | 4.1 | タイ | 3.7 |
| 7 | サウジアラビア | 4.5 | (b) | 3.9 | インドネシア | 4.1 | ベトナム | 3.5 |

貿易統計により作成。

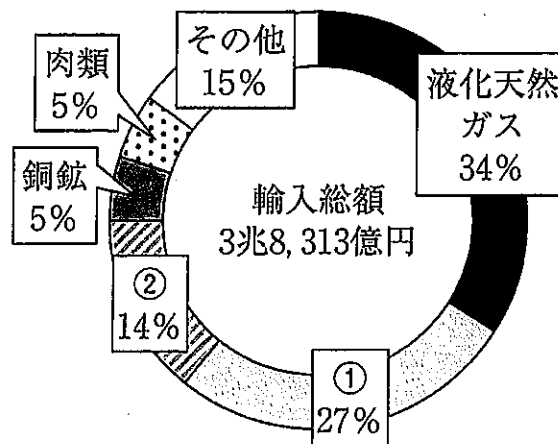
問1 表1のaに該当する国として最も適当な国名を答えなさい。

問2 日本とaとの間では、1980年代に貿易摩擦が一層深刻化した。当時、2国間の貿易摩擦を引き起こした工業製品として最も適当なものを答えなさい。

問3 aとの貿易摩擦を背景として、1980年代半ば以降、日本企業の生産拠点の配置がいかに変化したかを説明しなさい。

問4 表1のbに該当する国として最も適当な国名を答えなさい。

問 5 次の図1は、日本におけるbからの主な輸入品の割合(金額ベース)を示したものである。図1中の①と②に該当するものとして最も適当な品目名を答えなさい。また、bにおける①と②の産出地の地理的分布の特徴をそれぞれ述べなさい。



貿易統計により作成。統計年次は2020年。

図1

問 6 近年、bはアジア地域との経済関係を強めている。その背景について説明しなさい。その際、次の[]内の語をすべて用いて述べなさい。用いた箇所には下線を引くこと。

[移民, 旧宗主国, 距離, EC]

問 7 表1のcに該当する国として最も適当な国名を答えなさい。

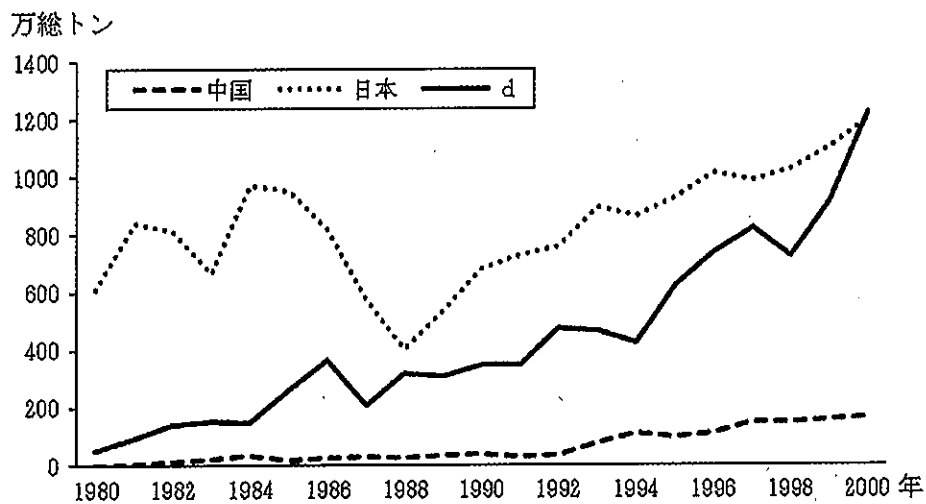
問 8 2000年代以降、cが日本最大の貿易相手国となった背景について説明しなさい。その際、次の[]内の語をすべて用いて述べなさい。用いた箇所には下線を引くこと。

[工場, 賃金, 日本企業, 輸出]

問 9 表1のdに該当する国として最も適当な国名を答えなさい。

問10 次の図2は、いくつかの国における新造船建造量の推移を示したものである。1980年代から1990年代にかけてのdの建造量の推移の背景について説明しなさい。その際、次の[]内の語をすべて用いて述べなさい。用いた箇所には下線を引くこと。

[経済協力, 工業化政策, 重工業, 輸出指向]



国土交通省(船舶産業課)の資料により作成。総トン数は船舶の容積を表す。

図2